

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年3月18日

事業所名 児童発達支援センター野の花

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	9	・狭さはあるが、スペースや環境作りを工夫して、安全に遊べる空間を作るようにしている。	・プレイルームがもっと広いとたくさん身体を動かして楽しめると思う。 ・雨天時に子どもたちが発散できたり、遊びを分散できる空間があると良い。 子どもたちが安全に過ごすことができるよう、スペースを有効に使っている。
	2 職員の配置数は適切である	7	7	・配置上は満たしているが、個別対応などもあるため、他クラスの職員とも連携しながら療育を行っている。 ・クラスの子どもの特性に合わせた配置を行っている。	・職員が急遽休みにになった時に代替で入ってもらえる職員がいると良いと思う。 職員配置は満たしているが、急遽の休みなどの場合は、クラス間で連携して支援をしている。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8	6	・危険な箇所や子ども達の思いもよらぬ行動もある為、定期的に点検して環境を整え、怪我のないように配慮している。 ・児童1人1人にマークを使うなど、視覚的に理解できるようにしている。 ・手洗い場の水が冷たく、十分に手洗いができないため、シャワーでお湯を出して洗うなどして対応している。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	12	2	・子どもたちにとって心地よく過ごせる空間作りを心掛けている。 ・コロナ感染対策のため、園内の消毒はもちろん、おもちゃなども毎日消毒を行っている。	・コンセントが子どもの手の届く下の方にあつて危ない。カバーを付けるなどして対応している。 ・園庭の改善が必要。芝生の管理や遊具の設置も必要。引き続き毎日の消毒や清掃を徹底して行っていく。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	11	2		業務がマンネリ化しないように、児発管を中心に業務改善に努めている。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	14			評価表回収後は職員が回覧し、保護者の意向を把握している。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	14			
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	11	2	・年に一度、内部監査等にて確認を行っている。	指摘事項等があれば、内容を確認して改善を検討する。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	11	3	・コロナ禍であるためオンライン等で行っている。	・コロナの影響もあり、施設内での研修が十分に行えていない。職員全体の支援の質の向上のため曜日を決めて定期的の実施するなどしていきたい。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	14		・保護者のニーズを基に、支援会議等で支援の視点に関する共有理解を行っている。	
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	13	1		統一された様式を使用して作成している。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	14		・児童発達支援ガイドラインについては全職員がいつでも目を通すことができるようにしている。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	14		・策定会議等にて情報共有などを行い、クラス担任全員が計画の内容を把握した上で支援を行っている。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	14		・主担任にて週間活動予定を作成し、活動内容の意図を周知したうえで、各活動の担当者が内容を決めている。 ・前日の終礼時に活動について全体へ周知をして、当日に再度打ち合わせ、スケジュールを作成して、個々が役割や動きを把握できるようにしている。	
15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	14		・活動後には必ず振り返りをして、同じ活動であっても内容が同じにならないようにしている。		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	14			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	14	・経験のある職員の中に新人職員が入り、支援内容や活動内容を確認するようにしている。		
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	14	・終礼時に1日の振り返りや気付き、危険だったことなどを全体共有できる時間を設けている。	・振り返りがどこまで活かしているか不明なことがある。 記録を残していつでも振り返り、状況を確認できるような体制を整えていくことを検討する。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	14	・記録できていない時もあるため、時間を見つけて記録したり、メモに残すようにしている。		
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	14		・定期的なモニタリングの実施が十分でないため、児発管を中心にモニタリングを行う期間を作っていく。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	14	・子どもの状況など定期的に共有を行っている。		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	11	3	・必要に応じて外部のSTやOTとの連携を行っている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				対象の児童なし。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				対象の児童がなし。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	11	2	・保護者に同意を得たうえで書面や電話でのやりとりを行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	11	2	・保護者に同意を得たうえで書面や電話でのやりとりを行っている。	・現場の職員が就学先を見据えて支援級や支援学校へ見学に行く機会を増やしていきたい。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	14			・コロナが落ち着いたら、他のセンターでの研修を行ってきたい。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		13		・コロナ禍で難しい。感染が落ち着いたら交流してみたい。 ・移行先の保育園や幼稚園と交流していくとよいので
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	13		・コロナウィルスの影響もあるがそもそも参加の機会がない。今後参加を検討していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	14		・送迎時や連絡帳、加えて電話でより詳しく様子を伝えるなどの対応をしている。	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	9	4		・保護者のニーズは高いと思われるため、外部講師やオンラインでの研修を検討し、実施していきたい。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	13	1	・契約時に児発管が行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	13	1	・児童発達支援ガイドラインに関しては、全職員がいつでも目を通せるようにしている。	・ガイドラインに基づいて説明できるほどの計画が立てられているか、自信はない。 再度全職員で読み合わせなどを行い、ガイドラインに基づいた計画の作成に努めたい。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	13	1		・保護者の方の思いに寄り添いながら、必要に応じて電話や対面での面談をして、助言等を行っている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	9		・保護者会を設けていない。 ・参観時にできるだけ交流をしてもらえようとして出来るだけ行事を行っているが、分散での実施や感染対策のため十分な交流の機会がない。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	14		・保護者からの相談や申し入れに関しては、園長や児発管も含めて把握をして対応をしている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	14			
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	14		・保管箇所には施錠をしている。	
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	14			
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	13		コロナウィルスの影響で実施できていない。
非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	13	1	・コロナウィルスの陽性者が出た場合や濃厚接触者に関する連絡をしっかりと行っている。	・実際に不審者が入ってきた時は女性職員ばかりなどで不安はある。そのことも想定してのマニュアルや訓練の実施を行っていく。
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	14			・地震や火災などを想定しながら避難訓練を行っている。
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	14		・該当児に関しては、保護者の方と情報共有をし、必要な時は指示書など書類の提出をお願いしている。	
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	14		・医師の指示に基づいて、該当児は他児と机を離して食べている。	
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	14		・書面での記録と併せて朝礼時等に全体へ周知、情報共有をし、再発防止に努めている。	
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	14		・年に1回事務員も含めて全職員研修を行っている。	
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	13	1		

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。